

## 令和5年度 市自主防災組織等 ネットワーク会議研修会



同会は5月10日、里町の中央公民館で研修会を開催。高津町自治会長の朝倉正道さんが、コミュニティタイムラインの作成について報告しました。また、京都大学防災研究所教授の矢守克也さんによる講演では、過去の災害での事例を交えて、避難時の判断基準をあらかじめ決めておく「避難スイッチ」を学びました。

## 非常持ち出し品

いつでも持ち出せるように、普段から準備しておきましょう。

- 食料品** 飲料水、乾パン、クラッカー、レトルト食品、缶詰、離乳食など
- 医薬品** 救急医薬品、常備薬、マスク、介護用品、生理用品など
- 貴重品** 現金、預金通帳、印鑑、健康保険証、身分証明書、マイナンバーカードなど
- 衣類** 下着、タオル、寝袋など
- 日用品** 懐中電灯、ラジオ、電池、ティッシュ、歯ブラシ、筆記用具など
- その他** 体温計、雨具、軍手、靴など



平成30年7月豪雨では土砂崩れにより3名の命が奪われました

## ハザードマップの確認を

災害から身を守るためには、地域の災害リスクを知ることが大切です。浸水や土砂災害が発生する恐れのある場所は、あらかじめハザードマップで確認してください。マップには、洪水が起こったとき

# “もしも”のために 出水期に備えを

6月から10月は、集中豪雨や台風などで川が増水しやすい出水期です。河川の氾濫や低い土地での浸水、土砂災害等が発生する確率が高くなります。いつ起こるか分からない災害に備え、避難方法、家庭での備蓄、災害時の情報収集などを改めて確認しましょう。

の浸水の深さも示しています。平時から危険な場所を把握するとともに、注意すべき災害の種類を知っておくことが大切です。

また、マップには避難所を掲載しています。災害の危険性があるとき、どのタイミングでどこに逃げるかを考えておきましょう。ハザードマップは全戸配布しているほか、市ホームページや防災・危機管理課でも確認できます。

### 避難所の開設を迅速化

市は、避難情報の警戒レベル3「高齢者等避難」発令時に、市内29カ所の避難所Ⅱ3面Ⅱを開設します。このうち、各地区の公民館と保健福祉センターを合わせた13の施設は本年度から、大雨警報等が

## ハザードマップの閲覧、メールなどの登録はこちらから

ハザードマップ



(記事ID26)

あやべーる(メールマガジン)



(記事ID747)

Yahoo! 防災速報



LINE



(記事ID735)



市は5月31日、防災関係機関と土砂災害などの危険箇所を点検する防災パトロールを行いました

## 警戒レベル3発令時に開設する避難所一覧

下記以外にも、自治会が開設する自主避難所があります。場所や開設のタイミングは自治会に確認してください。



施設名	電話
綾部小学校	42-0290
綾部中学校	42-0292
宮代コミュニティセンター	42-9845
綾部会館	42-8565
中筋小学校	42-0294
豊里中学校	47-0020
物部小学校	49-0025
何北中学校	49-0002
物部会館	49-0094
志賀小学校	49-0207
吉美小学校	42-0295
西八田小学校	44-0145
東八田小学校	44-0004
八田中学校	44-0024
東綾小・中学校	46-0033
上林小・中学校	54-0001

施設名	電話
市民センター(あやべ・日東精工アリーナ)	42-1320
中筋公民館(ふれあいセンター)	42-9399
豊里公民館(豊里コミュニティセンター)	47-0150
物部公民館(営農指導センター)	49-0001
志賀郷公民館	49-0201
吉美公民館(農業振興センター)	42-6772
西八田公民館(農村婦人の家)	44-1124
東八田公民館	44-1188
山家公民館(基幹集落センター)	46-0345
口上林公民館(健康ファミリーセンター)	45-1821
中上林公民館(観光センター)	54-0002
奥上林公民館(林業者等健康管理センター)	55-0001
保健福祉センター※	42-0111

※保健福祉センターは、一般の避難所での生活が困難な人のための福祉避難所として開設します。

### 情報入手手段は複数確保しよう

災害の危険があるときや災害発生時には、正しい情報を入手することが安全の確保につながります。市は▽防災行政無線▽FMいかる

情報入手手段は複数確保しよう

直ちに避難してください。避難情報が発令されていない場合でも、危険を感じるときは、自らの判断で早めに避難してください。

(防災ラジオ)▽あやべーる▽地域メルマガ▽緊急速報メール(エリアメール)▽市ホームページ▽フェイスブック▽LINE▽ライブジョン▽Yahoo!防災アプリなど、避難情報等をお知らせしています。これらは状況によって、利用できなくなる場合があります。複数確保しておきましょう。

# スローライフ・フォーラム in 綾部



府、市、スローライフ学会などで構成するスローライフ・フォーラム in 綾部実行委員会（委員長、山崎善也・綾部市長）は5月21日、里町の市中央公民館と府中丹文化会館で「スローライフ・フォーラム in 綾部」を開催。参加者約480人が、効率重視の時代だからこそ、多様に、そして「緩急自在」に生きる「スローライフ」について考えました。

とで、欲求が満たされ、人間は豊かさや幸福を実感する。社会や自然が変動をきたして私たちは大変な時代に生きている。今こそ、人と人、人と自然が結びつく社会に切り替えていかねばならない」などと語りました。

## 「スローライフ」について語り合う

午前中の分科会の発表を踏まえ、スローライフ学会会長の増田寛也さんがコーディネーターとなり、「あらためてスローライフを！」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



東京大学名誉教授・スローライフ学会会長 神野直彦さん

## 人間は素晴らしい

神野さんは「人間賛歌」と題して基調講演。「人が人と調和したり、人が自然と調和したりするこ

## 第3分科会

テーマ「多様に生きる」

アドバイザー  
筒井一伸さん（鳥取大学教授）

アドバイザー・進行  
坪井ゆづるさん（朝日新聞論説委員）



議論の中で「コミュニケーションを図る方法は大きく変わってきている。SNSでの付き合いと対面で会うのでは質がかなり違うのではないか」という意見が出ました。筒井さんは「コミュニティは希薄になってきている。それを再構築することで、多様性を許容することにつながっていくだろう」と締めくくりました。

## 第2分科会

テーマ「小さい力を活かす」

アドバイザー  
小田切徳美さん（明治大学教授）

アドバイザー・進行  
斉藤睦さん（地域総合研究所所長）



水源の里の関係者が多く、各集落での取り組みやコミュニティ、地域おこしなどについて意見交換。参加者は「いろんな地域でいろんな人が当事者意識で議論して、失敗したり悩んだりしている。成功したものも含めて、地域間でどんどん交流していける仕組みがあったら良いのではないか」など議論しました。

## 第1分科会

テーマ「食と農を大切に」

アドバイザー  
塩見直紀さん（半農半X研究所代表）

アドバイザー・進行  
野口智子さん（スローライフ・ジャパン副理事長）



参加者は、農的暮らし、半農半Xなどについて、語り合いました。芸術系の大学院生は「叔父が作る綾部のお米は、一粒がとても大事なものだと感じるほど。都会に住む私でも農に関わる方法がないのかいつも考えている」と意見があり、塩見さんは「今学んでいるアートやデザインを、農業や食の世界に生かすことができる」とアドバイスしました。

## Topics

前日の20日、スローライフ学会の皆さんが、グンゼ記念館（青野町）や綾部バラ園（同）、水源の里・老富のシャガ群生地を視察されました。水源の里・老富では、トチ餅のぜんざいを味わいました。



る」と解説しました。

スローライフ学会副会長の中村桂子さんは「東京の電車の中で毎日見る顔と全く違って、綾部では人間性が見え出すような顔に出会った。これは水源の里の取り組みなどプロセスを楽しむことが自信につながっている」と評価。増田さんは「昨日の視察で、綾部はあたたかさが溢れている地域だと実感した。綾部の優しさや本質は残しながら、緩急自在に環境の変化に合わせて、スローライフに結びつけてほしい」と締めくくりました。

西脇隆俊知事は「府総合計画のコンセプトは『あたたかい京都』。まさに、スローライフのテーマである人と人との触れ合いや絆を改めて認識した」と述べました。山崎市長は「どんな施策も市民一人ひとりが幸せと感じられてこそ」と言い、今直面している課題とその対策となるまちづくり、移住定住施策、水源の里事業などを説明。

明治大学の小田切徳美教授は「人口減少が進んでいるがワイワイ、ガヤガヤしている地域『にぎやかな過疎』は人が人を呼んでい